

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100493		
法人名	有限会社 大塚台夕月		
事業所名	グループホーム大塚台		
所在地	宮崎県宮崎市大塚台東1丁目1番地4		
自己評価作成日	平成23年11月21日	評価結果市町村受理日	平成24年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100493&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成23年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年2月に開設し初めての事も多い中、職員のチームワークを大切にして、利用者はもとより職員間の言葉使いにも注意し、互いに啓発できる環境を心がけている。また、毎日の日課として、朝のテレビ体操や気分転換と歩行訓練を兼ねた地域周辺への散歩に出かけたり、利用者一人ひとりの残存能力を生かして、一緒に料理や家事を行っています。職員は、個人個人の特徴を理解し、その人に合った役割を持ってもらい、各個人のニーズに沿ったケアが出来るよう日々努力しているところです。近くにスーパーがあり、職員と一緒に買い物に行ったり、地域の老人に敬老会等に参加を呼び掛けたり、散歩中に挨拶してもらったりしている。また、地域の自治会に加入、回覧板を回したり、スタッフが地域一斉清掃に参加したり、ボランティアに訪問していただくなど、地域との交流が増えていっている。今後もさらに地域の交流を拡大していき、地域の一員として生活が送れるよう努めていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームとしての顔でもあるパンフレットには、「散歩を日課とし地域との交流で」が掲げられており、自治会に加入し、さまざまな行事に参加したり、地域の老人会をホームへ招いたり、回覧板を利用者と共に回すなど、地域とのつながりを重視した支援を行っている。食事についても、みんなで食べたいメニューを決め、香りや音が聞こえる広々としたキッチンで、なじみの職員と利用者が一緒に作った手料理を、みんなで和やかな雰囲気の中で、テレビを消して食事を楽しめるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を、職員の行き帰り時に目につくよう玄関に掲示し、意識して介護するようになっている。	みんなで作り上げたホームの理念は、地域や利用者の尊厳、身体拘束等を盛り込んだ4つの重要な項目でまとめられ、みんなでその理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、散歩の時などに地域の方と気軽に挨拶をしたり、お喋りをしている。スーパーでも気楽にお話をしている。	地域参入の取組として、日常的な散歩や自治会に加入し、地域主催の一齐掃除や回覧板等で利用者と共にかかわっている。また、敬老会のホーム見学会の受け入れなどを行い、日常的な交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練や敬老会などに自治会長や民生委員の方を招いて参加していただいたり、入所者と地域の方の場を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、サービス状況を知っていただくとともに、地域の方からの率直なご意見を頂き、サービス内容の向上に努めている。	運営推進会議は、利用者等も交え、おおむね2か月ごとに行われているが、利用者の家族の参加が確認できず、そこでの意見をサービス向上に生かしているというまでには至っていない。	毎回、開催時には家族代表等の参加も含め、活発な意見を出し合い、サービスの向上に生かされることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者に地域推進会議に出席依頼をするとともに、機会あるごとに相談、報告をして協力関係をつけている。	行政側の見学やホームからの要望等にも適切なアドバイスを受けたりし、今後とも機会あるごとに協力関係を築いて行けるよう、積極的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、利用者不穏時に一時的、緊急的に使用しているが、日中の施錠は基本的にしておらず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全ての職員が拘束をしないケアの実践を正しく理解しており、特におこりうる言葉による拘束や、ベッド柵使用については細心の注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろん、精神的虐待につながるような言動がないよう心がけており、スタッフ間でも注意し合える環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての理解はしているが、該当する対象入居者は現時点でいないため、実際は取り組んでいない。対象者がいるときは速やかに活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明を重要事項説明書等で行っており、納得していただいた上で契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時にスタッフと気軽に意見、要望を発言される環境を作っている。また、意見箱を玄関に設置している。	相手の話に耳を傾け、相手の状況を判断し、どうしてほしいのかを探るスキルを高め、意見等が出しやすい雰囲気づくりの工夫に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常的にスタッフの意見交換を密に行っている。スタッフと一緒に学ぶ気持ちを大切に、運営につなげている。	スタッフの問題提起は先延ばしせず、早めの相談が出されるような雰囲気づくりに努めている。また、定期的な会議等で意見を出し合い、みんなで共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎日職場を訪れ、職場状況を把握し、労働条件を整え、やりがいを持って働ける職場環境を整えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人ひとりに合った研修を受ける機会を確保し、向上心を持って働ける取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と情報や意見交換をする機会をつくり、よりよいサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に状態を把握するためにケアマネ、看護師、管理者がそろって話を伺うとともに、初期段階では環境への適応が大変であることから、なるべく多くの関わりを持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族に伺ったこと以外に、新たな要望があるときは、電話や面会時に伺うなど、いつでも相談して頂ける体制を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を希望されている場合においても、アセスメントの中で他の希望があれば、他のサービスを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	希望があれば一緒に洗濯ものたたみや、台所にたっていたくなどの配慮をしている。また、スタッフは上からの目線に気を付け、共に同じという態度を表して接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の小さな言葉や、態度に気を配り、何でも話して頂けるような雰囲気作り心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた地域の方が面会に訪問して下さるときは、お茶を出すなどして面会しやすい環境づくりに心がけている。	ボランティアメンバーに利用者の仲間がおり、一緒に懐メロ等を歌ったり、知人の方達の来訪の際は、お茶の接待を心掛けている。また、家族の協力で自宅へ帰り、なじみの方達との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべく、ホールに来ていただき、入居者同士でかわりを持っていただいたり、体操やレクリエーションをする場を設けている。また、個々に居室で会話をされている姿を見受ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、施設や病院等に面会をし、状況を見たり、ケアマネやスタッフと情報交換してきた。また、家族にも退所後も相談事があるときは、いつでも相談を受けることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族より好きなことを聞いたり、本人の行動観察により意向を把握している。また、スタッフ間で状況を伝えあっている。	利用者や家族の意向を日々の活動の中から聴き取り、職員は潜在的なサインを見落とさないスキルを高め、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や入所後のアセスメントで把握している。机や椅子、写真等を持ってきていただいている。また、地域包括支援センター等に情報提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、日勤記録、夜勤記録、連絡簿等に状況を記録、勤務時にまず目を通して業務を開始している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは、スタッフ、看護師に聞きながら行い、サービス担当者会議は、本人、家族の意見を把握し、参加して頂き実施している。また、スタッフ会議でサービス内容確認を行っている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を用いて、利用者が望む暮らしを目指し、本人、家族の意向を反映した介護計画を作成している。また、必要な関係者とモニタリングやカンファレンス等を行い、計画の随時および定期的な見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤、日勤の記録を色分けして、スタッフが分かりやすいようにしている。日々の状況に変化があるときは、口頭でも情報を聞くことで共有でき、見直しにつながっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夜勤、日勤、連絡簿にケアマネは目を通し、日頃と違うことがあればその場で変更する。スタッフに伝え、記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方が訪問して、イベント事を盛り上げて下さったり、散歩に出ると挨拶を交わしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームで提携するかかりつけ医院以外でも、本人・家族の希望する病院・受診形態を実現し、提携をして、本人が安心して医療を受けられるように支援している。	受診は、本人および家族の希望する掛かりつけ医となっている。また、協力医との連携も重視し、支援している。通院に関しても家族との情報交換は密にし、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の中での健康面の変化や気付きは、早急に看護師に連絡をとり、適切な処置が行えるようにしている。必要時には、速やかに往診依頼、又は受診するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報を共有する事で、入院中でも本人・家族が、安心して治療に専念できるように努めている。退院が決まると直ちに病院に赴き、ケアマネ・看護師と情報の収集に努め、退院後、安心してホームで生活できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期ケアの説明をし、同意をいただいている。終末期ケアの実例はないが、今後そのようなケースがあるときは、家族とも協議の上、支援していきたい。	看取りについての指針も作成され、家族の理解も得ている。今後、職員全員で研さんを積み、実際の看取りの際も混乱しないよう努めていく取組を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、ターミナル期対応について部内研修を行った。 9月、スタッフ1名が応急手当研修【宮崎市南消防署】に参加した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	5月に消防署員、自治会会長、地域包括支援センター職員参加で避難訓練を実施。運営推進会議を定期的に行い、地域の方の理解、協力をいただいている。	ホーム開設以来、火災に関し消防署員立ち会いの下、避難、消火訓練は1回実施しているが、日ごろからの常設されている消火器の確認や自主的な避難訓練を行うまでには至っていない。	火災についての意識を高め、危機感を持ち、また、自然災害を想定した避難訓練を実施されることにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても、誇りやプライドを維持している事を全職員が常に意識しており、言葉かけにも十分気を付けている。	職員は、日々の活動の中で、利用者の人権や誇りを損ねることがないように、利用者の立場に立った丁寧な言葉かけや対応に配慮し、一人ひとりの尊重とプライバシー確保の徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	午後のお茶の時間に、会話の中から一人ひとりの希望を聞き出し、10月には利用者の意見の中から花見に出かけた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者のその日の体調や気分を把握するよう心がけており、それに合わせて本人に合った過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、できるだけ本人と相談しながら洋服を選んだり、男性では毎朝のひげ剃り、女性は時々マニキュアを塗ったりして、おしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好きなメニューを聞いておいたり、野菜の皮むきや、お盆拭きなど、体調を見ながらお手伝いして頂いている。	その日の食べたい物をキッチンで調理し、職員も一緒に食べている。自家製のつるし柿が程良い甘さで仕上がり、食卓を飾ったり、テレビを消して、楽しい食事となるような取組を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量や、形態、体重の増減などを把握し、配膳している。うす味で、野菜は毎食、肉・魚も毎日摂取し、バランスを考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣になっている4名は毎食後、自分で歯磨きやうがいをしている。1名は毎食後、介助している。3名は夕食後に口腔ケアをしている。 義歯は週1回ポリデント消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人に合った排泄のリズムを把握し、日中はトイレに誘導し、なるべくトイレでの排泄ができるよう支援している。	おむつをしているデメリットを職員全員が理解し、おむつ使用が常態化しないよう排せつパターンをチェックし、トイレで排せつできるよう、誘導等に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給、食物繊維の摂取に努めながら、毎日の運動を促すことで、自然排便を心がけている。それでも排便が見られない時は、看護師・主治医と相談しながら下剤の調整投与を行い、排便を確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	仲のいい利用者同士で浴槽に入れるように配慮したり、又、入浴を拒否される場合は本人の意思に任せている。	一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて、仲の良い方同士と一緒に入浴していただいている。また、入浴拒否の利用者は、状況把握し、無理強いをすることなく、個人の意向を大切に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその日の体調や気分に合わせて午睡したり、夜間も本人の眠りたい時間を優先している。又、本人に合わせて日中に運動や散歩をして、夜間に気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのお薬手帳、薬局で出される薬の説明書をファイルに綴じ、いつでも介護職員が確認できるようにしている。新薬については、看護師より参考文献を用いて説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	例えば、着付けの仕事がされてきた方に、職員の子供の浴衣や、七五三の着物の着付けをお願いしたり、女性の方には一緒に台所でおやつを作ったりと、その方に合った役割や楽しみを持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は近所を散歩に出かけたり、スーパーに出かたりしている。又、ご家族の協力もあって自宅に帰られたり、外食に出られたりしている。行楽シーズンには全員で花見に出かけたりして、楽しみを持っていただいている。	普段から散歩をしたり、買い物や季節の花見に行ったりしている。個別にも家族の協力を得ながら外食をするなど、いろいろな形で外出の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心される利用者は、財布をご自分で管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機をホールの目のつきやすい場所に設置しており、誰もが電話をかけられるように支援している。利用者からの希望があれば、ご家族の番号を調べて、電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、開放的で日中は日当たりも良く、利用者が居心地よく過ごせるように心がけている。季節の花を飾ったり、雛人形や鯉のぼり、七夕の飾りなど、季節感を取り入れながら生活できるよう支援している。	生活の場でもあるリビングには、卓上花やクリスマス飾りつけ等の季節感をとり入れ、外来者の感想や気づきを尊重しながら暮らしの場を整えている。また、色、光、においなどの五感刺激への配慮にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファーに集まって、日向ぼっこをしながら気の合う利用者同士で談笑されたり、又、別のソファーでは、一人でテレビを見たりと、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類の整理を好んでされる利用者には、ご家族と相談してタンスを増やしたり、又、大事な方の写真を飾ったりして、居心地よく過ごして頂けるように支援している。	収納スペースがあり、清潔感のある居室となっており、使い慣れた座いす、家族の写真等がさりげなく置かれ、落ち着いた雰囲気のある居室となるよう工夫がなされている。家族からプレゼントのシクラメンの鉢植えを、我が子のようにかわいがって手入れされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下が広く、利用者は自主的に歩行訓練を行ったり、リビングも車椅子で自由に動ける広さがある。又、自室を覚えるまでに時間のかかる利用者には、個別に居室前に張り紙を貼ったりして、混乱しないよう工夫している。		